

会報

# METAL FORM

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

No. **67**  
2018年7月

## CONTENTS

### ぽてんしゃる

- 2 長年の活動から蓄積された貴重な知恵と人材を次世代につなぐ役割を担い、新たな価値の創造へ  
日本塑性加工学会 会長 新日鐵住金株式会社 常任監査役 工学博士 吉江 淳彦

### 報告

- 3 第70回定時総会を開催  
御子柴 隆夫様が旭日小綬章を受章されました

### INFORMATION FILING

- 4 MF技術大賞2018-2019 応募準備は順調ですか？7月末の締め切りが迫っています！  
MFエコマシン認証制度 人と環境に優しいエコプロダクツの実現を推進します！

### Exhibition Information

- 5 MF-TOKYO 2019 プレス・板金・フォーミング展  
つながる技術、ひろがる未来 7月13日より出展受付を開始！

### 会員企業訪問

- 7 プレス機械などの機械事業から精密加工事業まで、常に新しい可能性を追求し続ける機械メーカー  
旭精機工業株式会社  
9 日本法人として40周年を迎えた、世界をリードする最先端テクノロジー企業  
トルンプ株式会社

### 会員技術紹介

- 11 “Total Solution Engineering”をキーワードにお客様と共に次のステージへ進んで参ります。  
しのはらプレスサービス株式会社

### INFORMATION FILING

- 13 新聞報道から見た会員動向(2018年3月~2018年6月)  
産学連携推進チーム・産学連携推進分科会がJFEスチール東日本製鉄所工場視察見学会を実施  
14 鍛圧機械 全会員受注グラフ(月次業況調査)／鍛圧機械 全会員受注グラフ(業況調査)  
DMC 2018(第18回中国国際金型技術と設備展示会)&2018 AMFE(上海国際自動車金型と成形加工展)の視察報告

### 工業会の動き (4月~6月)

#### 定時総会

・第70回(5月15日) 2017年度決算、2018年度事業報告、懇親会(芝パークホテル)

#### 理事会

・第52回(4月10日) 書面 決算承認  
・第53回(5月15日) 日鍛工表彰感謝規則の改定、日鍛工70周年記念式典開催要領等(芝パークホテル)

#### 正副会長会

・第30回(5月15日) 70周年表彰基準について(芝パークホテル)

#### 会計監査

・(4月6日)2017年度会計監査

#### 委員会

■技術委員会  
・第3回(4月19日)MF技術大賞2017-2018、ISO、

産学連携研究の進捗状況 等

■ISO/WG1対策委員会  
・第39回(4月24日)ISO/TC39/SC10/WG1ベルリン国際会議の報告等  
・第40回(6月20日)ISO/TC39/SC10/WG1パリ国際会議に向けて 等  
・第17回(5月29日-6月1日) ISO/TC39/SC10/WG1国際会議(仏・パリ)

■ISO/WG12対応チーム委員会  
・第21回(4月5日)ISO 14955-4 2ndDISドラフトのコメント内容の審議と共有 等  
■JIS改正原案作成委員会  
□JIS改正原案作成分科会  
・第1回(4月26日)JIS B 6402、JIS B 6403現状及び改正原案作成の必要性について

#### MFエコマシン認証

■MFエコマシン認証審議会  
・第36回(6月5日) MFエコマシン認証審議

#### 専門部会

■レーザー・プラズマ専門部会  
・第3回(5月31日) ファイバーレーザー加工機の安全講習  
レーザー加工機安全取扱資格制度(仮称)について等

■サービス専門部会

□レーザーサービス分科会  
・第5回(4月11日) 工業会基準のレーザー加工機定期検査制度策定について

□シャー分科会  
・第10回(4月18日) シャーの安全装置の仕様・構造規格案について  
・第11回(6月14日) シャーの安全装置の仕様並びに構造規格と定期自主検査制度について

■鍛造プレス専門部会  
・第4回(4月17日) ユーザが実施すべき保護方策、策定について

■油圧プレス専門部会  
・第4回(6月19日) 機械イラスト化企画の説明文・機械成形品の写真、イラスト添付について等

#### 講習会

・日本鍛圧機械工業会・日本塑性加工学会 産学連携企画(6月29日)「IoT活用による賢い塑性加工技術」セミナー

#### 会員退会

・エー・ピー・アンド・ティー株式会社(5月31日退会)  
・サンテクス株式会社(6月30日退会)



## 会報 METAL FORM No.67 2018年7月

発行所／一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館3階

TEL.03-3432-4579 FAX.03-3432-4804 URL : <https://j-fma.or.jp/>

発行人／中右 豊 発行／季刊：1月、4月、7月、10月の4回発行

■本誌に掲載した記事の無断転載を禁じます。

## 長年の活動から蓄積された貴重な知恵と人材を 次世代につなぐ役割を担い、新たな価値の創造へ

日本塑性加工学会 会長  
新日鐵住金株式会社 常任監査役 工学博士

吉江 淳彦



### 「多くの知恵と人材で次の発展を」

日本塑性加工学会(当学会)は塑性加工分野の学術的な進歩をリードし、自動車、機械、鉄鋼、非鉄等多くの産業の技術と競争力の向上に貢献してきました。塑性加工技術の進歩は、さまざまな素材を適切な「かたち」の部品や構造体に成形することを可能とし、多くの新たな価値を創造してきました。今後も塑性加工という学術、技術の必要性や有用性はますます高まると思っております。昨今のエネルギーシフト、IoTやAIがもたらす仕事そのものの再構築等、いわばゲームチェンジともいえる激変の時代においても、塑性加工が生み出す新たな価値を、当学会から広く社会に提供していきたいと考えております。

期待される新たな価値としては次の3点を考えています。

- ①塑性加工を通じて素材の特徴や長所を最大限に引き出す
- ②「かたち」の工夫により部品や構造体の性能を向上させる、その「かたち」を製造する
- ③企業の競争力強化に資するような、高度な大量生産技術を実現する

これらを実現するためにも、学術・技術面の進歩を先導し、素材、設計、製造、設備、制御等の技術をワンストップで解決できる頼りになる専門家集団でありたいと考えています。

会員個々が学術・技術の深化に挑戦するとともに、外部にある知見との融合による新たな研究課題への取組を始めるべく、他の学会や機関との連携の土台をつくり、個々の活動がやりやすい環境をつくっていききたいと考えています。

こういった連携の中で、各地域に技術開発、技術交流のベースとなる拠点を築き、人と技術の良い循環が

持続的に生まれるような仕組みづくりも検討したいと思っています。

当学会には強みのある大学と固有技術を有する会員企業が各地にいますので、拠点づくりの土壌はあると思います。

さらに国内にとどまらず海外にも連携の輪を広げて、特に会員企業が海外拠点を構える際の人材確保等の支援をすることも重要な検討課題だと考えております。

### 「今後の人材育成について」

活動の基盤は会員ですが、素形材界が直面している「係わる人材の減少」という深刻な問題に適切に対応する事により、学会を盛り上げ、発展させていく必要があります。そのためには、多くの人が自然に集うように当学会の魅力を高めていくことが第一だと思います。

- ①塑性加工に係わる研究者・技術者の減少には他の学協会・機関との連携を進め、より幅広い多くの人が参画できる研究領域を創出する
- ②当学会の会員数の減少傾向への対策として、若手からシニアまで活躍の場が提供されるように配慮・検証を行う
- ③講演会参加者の減少に対して、新たな知識や知り合い等、得るものがさらに増えるよう、講演内容などを検証して改善をはかる

日本鍛圧機会工業会様とは、引き続き産学連携の企画推進を強化し、MF-TOKYOでのイベントの共同開催などを通じて、塑性加工のプレゼンスを高めるべく協力していきたいと考えています。

今後も、塑性加工に関係する人材が増え、育ち、活躍してくれることを通じて、当学会が日本製造産業の発展に貢献できることを願っております。

(談)

## 報告Ⅰ 第70回定時総会を開催

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会は5月15日(火)、東京・港区の芝パークホテルで、第70回定時総会を開催した。総会には、来賓として経済産業省素形材産業室より2名、秋元祥代室長補佐と企画調整・塑性加工担当の星野勝亮様をお招きした。役員紹介の後、宗田世一代表理事会長の挨拶に続き宗田会長が議長となり議事が進行された。報告事項として「2017年度事業報告書」「2018年度事業計画書」並びに「2018年度正味財産増減予算書」の説明が行われ、異議なく終了。

決議事項は第1号議案「2017年度決算書承認の件」、第2号議案「役員報酬等規則の改定について」で、それぞれを承認した。

総会終了後、懇親会を開催。宗田会長の挨拶に続き、来賓から岡本繁樹経済産業省素形材産業室長、米山猛日本塑性加工学会副会長から祝辞を頂き、御子柴元会長の乾杯発声で開始され、和やかなうちに懇親会は終了した。



宗田世一  
代表理事会長



岡本繁樹  
経済産業省素形材産業室長



米山猛  
日本塑性加工学会副会長



御子柴隆夫  
第12代会長

## 報告Ⅱ 御子柴 隆夫様が旭日小綬章を受章されました

### 日本鍛圧機械工業会元会長(第12代会長) 御子柴 隆夫 様が 平成30年春の叙勲を受けられました

御子柴様は、昭和56年6月に(任)日本鍛圧機械工業会理事に選出され、平成3年5月には(社)日本鍛圧機械工業会の副会長に就任、平成15年5月より会長に就任。平成19年5月に会長を退くまでの26年間の長きにわたり当会の新たな組織体制の構築、組織強化、技術振興、国際交流等の事業の推進のため尽力されました。

また、業界団体会長として類まれな指導力と企画力、世界的視野のもと、国際化、技術力の底上

げなど業界の発展に献身的に貢献されました。

長年のご功績に対する栄えあるご受章、おめでとうございます。



# MF技術大賞 2018-2019

応募準備は順調ですか？ 7月末の締め切りが迫っています！

2018-2019 METAL FORMING TECHNICAL GRAND PRIZE  
**MF技術大賞**  
つながる技術、ひろがる未来

**募集要項** (募集期間：2018年4月1日～7月31日必着)  
MF技術大賞  
賞金 100万円

主 催  
■ 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会  
特別協賛  
■ 一般社団法人 日本塑性加工学会  
■ 一般社団法人 日本金属プレス工業協会  
■ 一般社団法人 日本鍛造協会  
■ 一般社団法人 日本金型工業会

「MF 技術大賞」は、Metal Forming (MF) に不可欠な鍛圧機械、製品加工、研究などの7つの要素を組み合わせた、鍛圧機械の世界最高級の大賞です。

高精度・高生産性ならびに安全・環境性能を顕著に有するトータルでエコな製品製作の成果を国内外に発信し、鍛圧塑性加工技術の発展に寄与することを目指します。鍛圧機械の良さを最終製品の良さを証明するため、鍛圧機械メーカーと加工メーカーなどの「ものづくり総合力」を発揮されたグループを表彰します。

## ■ MF 技術大賞制度 運営スケジュール (予定)

- MF技術大賞応募期間 〈2018/4/1～7/31〉  
製品加工メーカー・鍛圧機械メーカー等が応募代表者となる会員企業と応募
- 応募内容確認期間 〈2018/4/1～7/31〉  
日鍛工が応募内容を確認
- 受賞候補を選出 〈2018/10〉  
予備審査部会で受賞候補を選出
- 受賞者の決定 〈2018/11〉  
選考委員会で受賞者の決定、理事会の承認
- 表彰式 〈2019/1〉  
賀詞交歓会に併設する表彰式にて表彰盾・賞金の贈呈
- 受賞製品展示：MF-TOKYO 2019  
受賞製品パネルを MF-TOKYO 2019 に展示

■募集期間 **2018年4月1日～7月31日** 日本鍛圧機械工業会 事務局 必着。

■応募方法 応募方法の詳細は、日本鍛圧機械工業会ホームページ(会員ページ)や募集パンフレットをご覧ください。  
応募書類様式は、ホームページよりダウンロードしてください。<https://j-fma.or.jp>

# MFエコマシン認証制度

人と環境に優しいエコプロダクツの実現を推進します！

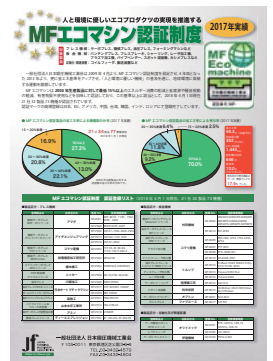
**対象製品** プレス機械：サーボプレス、機械プレス、油圧プレス、フォーミングマシンなど  
板金機械：パンチングプレス、プレスブレーキ、シャーリング、レーザー加工機、プラズマ加工機、パイプバンダー、スポット溶接機、カシメプレスなど  
自動化・関連装置：コイルフィーダ、搬送装置など

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会は 2009 年 4 月より、MF エコマシン認証制度を発足させ、4 年目となった 2013 年より、更に省エネ基準をアップさせ、「人と環境に優しい機械」の普及を通じ、地球環境に貢献する運動を展開しています。

MF エコマシンは 2000 年生産製品に対して最低 15%以上のエネルギー消費の削減と省資源や騒音振動の軽減、有害物質不使用などを加味して認証しており、この基準以上に該当として、2018 年 4 月 1 日現在 21 社 32 製品 73 機種が認証されています。

認証マークの商標登録は日本、EU、アメリカ、中国、台湾、韓国、インド、ロシアにて登録完了しています。

2017年実績



# MF-TOKYO 2019

## プレス・板金・フォーミング展

つながる技術、ひろがる未来

7月13日より  
出展受付を  
開始!

会期：2019年7月31日(水)～8月3日(土)

会場：東京ビッグサイト 西1・2 & 南1・2ホール

MF-TOKYO は、鍛圧機械（プレス・板金・フォーミング・自動化・周辺機器）の国際展示会として2009年に初開催しました。本展は、ドイツと並び世界で製造産業をけん引する日本の最先端の機械や技術を紹介し、わが国の鍛圧機械産業の発展を目的としています。

それまで無かった鍛圧機械の専門展示会でしたが、ご出展者をはじめ鍛圧機械と関連のある皆様のお陰で、開催規模・来場者数共に毎回増え、2019年に6回目を数えます。そして、今回からMF-TOKYOの表記を全て大文字としました。海外展示会の名称では大文字表記がスタンダードであることから、本展示会もそれに合わせ、これまで以上に充実した国際展示会となることを目指します。



人・機械・技術・世界など様々な「つながり」の重要性が増すなか、MF-TOKYO 2019は「つながる技術、ひろがる未来」を副題としました。ご出展を検討いただく各位におかれましても、今後の重要なテーマではないでしょうか。ぜひ各位の優れた製品や技術をご出展いただき、本展示会をご活用頂ければと思います。

鍛圧機械・自動化装置・関連機器・加工技術・サービス技術が一堂に会する本展は、専門展示会ならではのプレス加工・板金加工・フォーミング加工に造詣の深い来場者様が多く訪れます。関係各位のご参加を心よりお待ちしております。

### MF-TOKYO 2019は

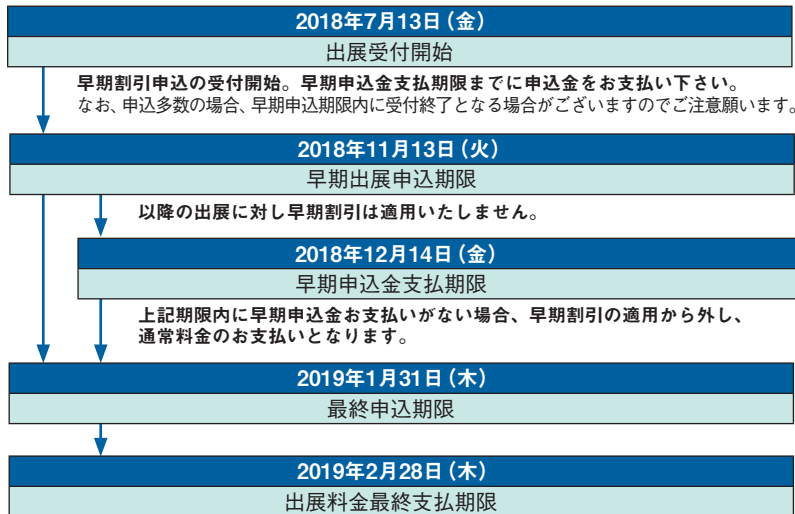
- (1) 日本から世界へ発信する塑性加工技術の専門展示会です。
- (2) 専門展ならではの質の高い来場者を数多く動員する展示会です。
- (3) セミナー・講演など最新の塑性加工技術情報を発信いたします。



### MF-Tokyo 2017 結果報告

名称：MF-Tokyo 2017 プレス・板金・フォーミング展  
 副題：“その先の未来へつなぐ、ものづくり”  
 開催期間：2017年7月12日(水)～15日(土) 4日間  
 開催会場：東京ビッグサイト東4・5・6・7ホール  
 併催事業：特別講演、学会テクニカルセミナー、出展者テクニカルセミナー、大学研究室発表会  
 開催規模：265社・団体（共同出展含め317社）1,669小間（約15,000㎡）  
 入場者数：31,715人（うち海外来場者 1,026人）

## ■ 出展申込・料金のお支払のスケジュール



2019年3月4日(月)	出展者説明会(予定)
会場は後日連絡いたしますので、出展担当者の方は必ずご出席ください。本説明会では、搬入搬出作業、装飾施工、防火・防災の管理、電気工事などについての諸規定・諸注意を「出展マニュアル」をもとにご説明いたします。	
2019年5月24日(金)	各種届出書類提出期限
2019年7月27日(土)～7月30日(火)	搬入・装飾加工
2019年7月31日(水)～8月3日(土)	会期(3日終了後 搬出・撤去)
2019年8月4日(日)	搬出・撤去

## ■ MF-TOKYO 2019 プレス・板金・フォーミング展 開催概要

- 副 題：つながる技術、ひろがる未来
- 会 期：2019年7月31日(水)～8月3日(土)
- 開 催 時 間：9:00～17:00 (最終日は9:00～16:00)
- 会 場：東京ビッグサイト 西1・2 & 南1・2ホール
- 主 催：一般社団法人 日本鍛圧機械工業会／日刊工業新聞社
- 後 援：経済産業省/厚生労働省/環境省/日本貿易振興機構(JETRO) (申請予定)
- 特 別 協 賛：日本塑性加工学会／日本鍛造協会／日本金属プレス工業会／日本金型工業会／  
日本工作機械工業会／日本ねじ工業協会／日本ばね工業会
- 協 賛：日本自動車工業会／日本自動車部品工業会／レーザ加工学会／日本ロボット工業会／  
日本電機工業会／日本建設機械工業会／日本溶接協会／日本精密機械工業会
- 海 外 協 賛：中国机床工具工業協会／中国鍛圧協会／中国模具工業協会／インド工作機械工業会／  
アメリカ製造技術工業会／台湾機械工業同業公／韓国工作機械産業協会(以上、順不同・法人格略)
- 併 催 事 業：シンポジウム、セミナー、企画展 など
- 入 場 料 金：1,000円 (招待券持参者及び事前登録者は無料)
- 目標出展者数：270社・団体、1,670小間
- 目標来場者数：32,000名以上 (うち海外来場者1,300名)
- 会 場 面 積：29,760㎡

## ■ 日本塑性加工学会はじめ、各協賛学会、出展者と連携し、セミナー講演を充実。

MF-TOKYO 2019 は日本塑性加工学会をはじめ、各協賛学会と連携し、セミナー・講演などを通して最新の鍛圧塑性加工情報を発信します。

### 入場者数：※重複なし実人数

日付	天候	人数(うち海外来場者数)	前回同日比
7月12日(水)	☀	6,673人(332人)	+19人
7月13日(木)	☀	7,623人(373人)	+448人
7月14日(金)	☀	10,508人(249人)	+831人
7月15日(土)	☀	6,910人(52人)	-44人
4日間合計		31,715人(1,026人)	前回比1,254人増 (うち海外来場者166人増)



## 01 旭精機工業株式会社

# プレス機械などの機械事業から精密加工事業まで、常に新しい可能性を追求し続ける機械メーカー

特殊な分野で磨かれた技術をもとに発展  
総合エンジニアリング企業として高い信頼を得る

1953(昭和28)年に、旭大隈工業株式会社として設立。GHQの依頼で小口径銃弾の製造という特殊な分野からスタート。高精度・高信頼性が求められる銃弾の製造に携わるなかで、金属加工の高度な技術を幅広く蓄積するに至った。1961(昭和36)年に、現在の旭精機工業株式会社に社名変更。金属加工の技術を活かし、精密金属加工品の生産を開始する。深絞り成形を中心として高度な要求に応える高品質な加工製品を供給し、自動車・情報通信・家電をはじめ、様々な生活関連分野で活躍している。

「弊社の精密加工事業部では、量産加工技術と産業機械製造メーカーとして実績のある設備技術を融合させることにより、お客様の要求に応えた高品質な製品の安定供給を実現し、売上比率としても約3割を占めています」。

そして、機械設計・製造の分野においては、1958(昭和33)年にすでに自動連続プレス(マルチフォーミングマシン)の製造を手掛けていたが、フォーミングプレスやトランスファープレス、ばね成形機などを製造していた米国のU.S.ベアード社と技術提携をして正式に工作機械の製造を開始する。幅広い技術の獲得に努めながら、プレス機械、ばね機械、自動機・専用機などの生産機器・システムを相次いで開発。現在では生産分野の課題に応える総合エンジニアリング企業として高い信頼を得ている。

プレス機械、ばね機械などの製造・販売において  
独自の付加価値により他社との差別化を図る

旭精機工業株式会社は、プレス機械、ばね機械、自動機・専用機といった多彩な機械ラインナップを開発し、国内はもちろん世界中で高い評価を受けている。なかでも小型トランスファープレスは、世界でも圧倒的なシェアを獲得している。

「トランスファープレスはとてもニッチな分野で金型に独自のノウハウが必要です。トランスファープレスの金型の市場はそれほどポピュラーではなく、弊社も金型の設計製造はメインではないのですが、設立当初から育成されてきた技術の一つでしたので、金型の指導をしながら機械を販売していくという手法をとっています。単に機械を販売するだけではなく、お客様からこんな製品をつくりたいというご要望に応えながら金型を含めたトータルなご提案をしていくことが弊社から購入する付加価値であり、他社との差別化にもなると確信しています。また、ここ20年ほどは、トランスファープレスは電池缶の製造が主流となっており、現在、乾電池の製造は主に中国で行われています。その中でもメインがリチウムイオン電池で、特にEVの分野で世界を制する中国からのオーダーが増えており、弊社のプレス機械の80%以上が中国向けとなっています。今後は自動車や自転車のEV化や家電のコードレス化などで、電池関連の需要が増えてくると思われます」。



本社全景



本社ビル





旭精機工業株式会社

〒 488-8655

愛知県尾張旭市旭前町新田洞 5050-1

TEL.0561-53-3119

<http://www.asahiseiki-mfg.co.jp/>

阿比留 憲史

常務取締役 機械事業部長

さらに旭精機工業株式会社は、ばね機械のトップメーカーとして、1979(昭和54)年に世界に先駆けてCNC化に成功した。「ばね機械関連もライバル会社の多い分野で、そこでいち早くCNC化を達成したのは快挙といえます。その後も、制御装置にパソコンを使用することで操作性を格段に向上させるなど、ばね機械でも独自の付加価値により他社との差別化を図っています」。



出荷を待つ高速プレス

### 蓄積された加工技術・品質管理技術を活かし 新たな機械事業への積極的な展開を図る

旭精機工業株式会社の機械事業部では、1971(昭和46)年に、自動機・専用機の製造を開始。高度に標準化されたユニット群を活用することで柔軟な対応力と低コスト化を実現し、自動車・電機などの幅広い分野で活躍している。そして、プレス機械、ばね機械、自動機・専用機の4つの柱に加えて、

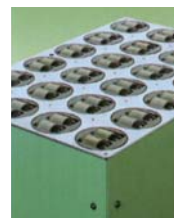
これまでに蓄積してきた加工技術・品質管理技術を活かして、航空機の部品加工も開始している。さらに物流の世界に新たな1ページを開く、新発想の搬送装置の開発にも力を注いでいる。

「旅客機やヘリコプター、宇宙ロケットなど、航空機部品は極めて高い精度と耐久性が要求されます。弊社の加工技術・品質管理技術をフル活用した新たなチャレンジとして、新事業の柱となる航空機の部品加工に着手しました。この分野が今後さらに進展していくことを願っています。また、現在も開発に取り組んでいるのが新発想の搬送装置『スーパートランスサブ』です。限られたスペースでの分岐や合流を可能とし、仕分け位置や荷サイズもソフトウェアのみで変更できる、まさに未来の物流業界におけるリーディング装置となりうるものです」。

プレス機械、ばね機械、自動機・専用機、精密金属加工品、航空機部品、搬送装置と、それぞれの分野で優れた技術を発展させつつ、互いにシナジー効果も生み出しているという旭精機工業株式会社。今後も、あらゆる分野において新しい可能性を追求し続けていくことは確かだ。



自動機・専用機



搬送装置

成形スライドのカムレスを実現。  
最新鋭NCマルチフォーミングマシン F3スマートフォン用リチウムイオン電池ケースの  
加工用最新鋭トランスファープレス iTP-60W高速・高精度生産生を実現。  
最新鋭ばね機械 CFX-5E

## 02 トルンプ株式会社

# 日本法人として 40 周年を迎えた、 世界をリードする最先端テクノロジー企業

**1923(大正 12) 年創設のドイツの伝統メーカー  
日本においてお客様との確かな信頼を築く**

工作機械、レーザー、エレクトロニクスの分野で世界をリードするドイツの TRUMPF (トルンプ) 社は、1923(大正 12) 年に機械工場として創設。1967(昭和 42) 年、数値制御を搭載した最初の板金加工機械 TRUMATIC20 を発表。翌年パリで開催された第 11 回ヨーロッパ工作機械展でセッションを巻き起こす。1979(昭和 54) 年に最初のパンチレーザー複合加工機 TRUMATIC180 LASERPRESS が登場。その後も、多くの優れた製品を生み出し今日に至る。

そして、トルンプ株式会社は、1977(昭和 52) 年にドイツ・トルンプ社 100% 出資の現地法人トルンプジャパン株式会社として設立。1980(昭和



ドイツ本社(ディッツインゲン)



本社・テクニカルセンター(横浜)

55) 年、トルマティック・レーザプレス(複合機)を販売開始。1985(昭和 60) 年に、現在の社名に変更。1987(昭和 62) 年に、神奈川県横浜市緑区のジャーマン・インダストリー・パーク内へ移転し、同時にテクニカルセンターを開設。ベンディングマシンをはじめ、レーザー切断機、CO<sub>2</sub> レーザと YAG レーザの発振器など、次々と製品を販売し、日本の現場でも数々の実績を挙げ、確かな信頼を築いている。

**サービス拡充、革新的技術の提供、デジタル化など  
日本のお客様のニーズに応える 3 つの戦略**

2017(平成 29) 年に 40 周年を迎えた日本法人のトルンプ株式会社。2018(平成 30) 年 2 月に代表取締役社長に就任したフォルカーヤコブセン氏は、レーザーと光学の研究で博士号を取得し、トルンプ社の半導体業界向けレーザーの製造・販売及び半導体製造事業「EUV リソグラフィ」を行うグループ会社の常務取締役を務めたという経歴の持ち主。「私は 18 年前に日本の研究所に勤務したことがあり、そこで妻と出会い、今では日本語とドイツ語を話す子供がいます。今回、トルンプ社にとって特別な役割を持つ日本法人の社長として、家族ともども日本に戻ってくることができて大変幸せです」。

今年より舵を取るフォルカーヤコブセン社長は、日本での戦略をこう語る。

「これからの日本での取り組みを 3 つの戦略で考えています。第一に、日本で成功を収めているお客様との信頼関係を維持していくということ。トルンプの機械の生産性をお客様の工場においていかに活かすかが私たちの仕事と考えます。特に重要な日本市場でサービス網の拡充を進めていきます。

第二は、お客様の競争優位となる革新的な技術を提供することです。例えば、レーザー加工の最新技術である High Speed ECO は、材料の厚さによりますが最大で切削速度が従来の 2 倍になり、窒素ガスの消費量が 70% 削減でき、高い評価を得ております。



トルンプ株式会社  
 〒 226-0006  
 神奈川県横浜市緑区白山 1-18-2  
 TEL.045-931-5710  
<http://www.trumpf.com>

フォルカー ヤコブセン  
 代表取締役社長

また、TruBend Cell 5000/7000 は、生産性が高く、多種多様な製品へのフレキシブルな対応ができる自動バンディングセルです。さらに、日本市場向けに開発され、来年にはグローバル販売される、3次元の切断、溶接、レーザー肉盛溶接に対応する3Dレーザーカット用フレキシブル・コンパクトマシン TruLaser Cell 5030 は、中小ロットサイズにおいて柔軟性の高いソリューションを求められるお客様に最適です。その他、工作機械以外にもレーザーなど非常に重要な役割を担う技術も引き続き提供していきます。

第三は、デジタル的な組織づくりの実現。弊社は依然として小規模な会社ですが、現在までに160人を超える人材が育っています。さらなる人材の育成と機能強化のためのプロセスのデジタル化を推進していきます。

弊社ではこの3つの戦略を展開し、日本のお客様を最優先として、多様なニーズにお応えしていきます」。

**ものづくり企業を強力にサポートする  
 数々の革新的テクノロジー**

トルンプ株式会社では、自社の戦略と共に、次代へ向けた企業への提案も積極的に行っていきたいという。

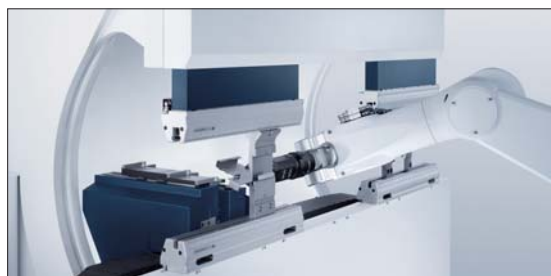
「ヨーロッパの自動車の生産工場では、日本よりもはるかにレーザー溶接を採用しています。お客様のレーザー溶接部品の設計は弊社と協力して開発しています。この共同開発で、剛性が高く、より軽量の車体を製造することが可能となっています。

TruPrint 3000 (3D プリントシステム) は最新のレーザーテクノロジーにより、メタルフュージョン (粉末溶融積層) とメタルデポジション (肉盛積層) の積層造形法が使い分け出来る世界で唯一のシステムであり、トルンプの強みです。このような日本ではまだ需要の少ない革新的なテクノロジーを国内にもっと広めていければと願っています。

一方、ビッグデータの活用も積極的に推進している。「例えばヨーロッパの自動車メーカーでは、ビッグデータを活用して、工場内のレーザーの状態をリアル

タイムでモニターしています。毎秒、毎分のデータを活用することで摩耗または潜在的なエラー等を事前にチェックでき、生産が止まる前にフィードバックして修理することが可能となっています。このテクノロジーを JIMTOF 2018 で日本に紹介する予定です」。

そして、ヤコブセン社長は、10年後を見据えてさらなる成長を目指すという。「日本法人として40周年を迎えられたことを誇りに思い、今日まで共に歩んでいただいたお客様に心より感謝申し上げます。今後も鍛圧機械工業会と良好な関係を築き、収益だけの成長ではなく、日本のお客様との信頼関係を重視して、目に見えるカタチで貢献していきたいと考えています」。



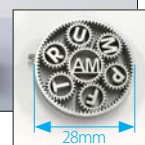
自動バンディングセル TruBend Cell 7000



3Dレーザー切断機 TruLaser Cell 5030 (2019年販売予定)



3Dプリントシステム TruPrint 3000



会員  
技術紹介

“Total Solution Engineering”をキーワードに  
お客様と共に次のステージへ進んで参ります。

1

はじめに

しのはらプレスサービスはプレス機械に対して、独自に修理や改造技術、そして周辺装置の開発を行っているプレス機械の総合メンテナンスエンジニアリング企業です。

究極の安全装置「シャッターガード」や押しボタンの革命児「BREAK-A-BEAM」、ACサーボ駆動の「トランスファフィーダ」、老朽化したプレス機を最新鋭機に蘇らせる「リビルト・ラボ」といった、50種以上の独自技術、商品を生み出してきました。

点検から集められたプレス機 4,700 機種以上のデータから情報力をベースに、技術力・開発力・提案力を通じて、お客様のパートナーとして問題解決して行きます。

しのはらプレスサービスはお客様と共に“Total Solution Engineering”をキーワードに次のステージへ進んで参ります。



2

リビルト・ラボ

しのはらプレスサービスでは、旧式機械を生産現場の第一線でも活躍できるようなプレス機械に蘇らせる「リビルト・ラボ」をご提供しております。リビルト・ラボは単に元通りに復元するだけではなく、ご希望のスペックを付加することや、エアークラッチを油圧クラッチに変えるなど、既存以上のものをご提供しております。お客様がお持ちのプレス機械に改造を加えるので、今までお使い頂いていた金型もそのまま使えますし、コスト面でも非常にエコであると考えております。

しのはらプレスサービスは、短納期・低コスト化実現の為、お客様の工場での工事も行っております。全国 14 力所の営業所には、サービススタッフが常駐しているので、対応もスピーディーです。

汎用機械では実現不可能な機能や不満を解消し、必要な機能を兼ね備えた、世界に 1 台だけのオーダーメイドプレス機を実現することができます。



リビルト・ラボによるプレス機再生

3

シャッターガード

ハンドインダイのプレス作業向けの究極の安全装置、自動起動式インターロックガード式安全装置「シャッターガード」。シャッターガードは、ガード板内外のセンサーによって手の出し入れを検知し、ガード板の開動作に続いて、プレス機を自動で起動させます。ガード板が完全に閉じない限りプレス機は動作しない為、極めて高い安全を確保できます。

プレス機は自動で動作する為、オペレーターは押しボタン操作が不要であり、ワークの取り出しや、次工程の準備を行うことができます。例えば 2 台のプレス機械にシャッターガードを取り付けることで、一人で多台持ち運転を行うことも可能です。

シャッターガードは対象プレスメーカーも問いませんし、汎用プレスを始めとした、大型や熱間鍛造プレス向けなどバリエーションも多くご用意しておりますので、お客様の工場全体での作業環境改善に貢献いたします。



シャッターガード

シャッターガードによる安全性確保

鈴木翔太  
 しのはらプレスサービス株式会社  
 人材開発・企画部  
 〒273-0016 千葉県船橋市潮見町34-2  
 TEL 047-433-7761  
<http://www.shinohara-press.co.jp>

4

### BREAK-A-BEAM

押しボタンの革命児、光線式両手起動装置「BREAK-A-BEAM」は、押しボタンによるオペレーターの負担を軽減することができる製品です。従来の押しボタンは指先に35Nという力をかけて押さなければなりません。しかし、BREAK-A-BEAMは押しボタンの「押す」を「遮光する」に変え、指先を置くだけでプレス機械を運転することが可能となります。これにより、35Nという力が不要となり、オペレーターの負担を軽減することができます。

操作部には光電センサーを使用しており、センサーを遮断することでプレス機が運転します。もちろん安全性も確保しており、片手操作防止の為に時間差のある操作ではプレス機は動作しません。



従来の光線式両手起動装置



BREAK-A-BEAM

5

### トランスファフィーダ

近年のプレス加工現場は、多様な安全対策と共に人手不足、コスト削減、生産性向上など、多面的な問題解決が求められる複雑な環境にあります。

しのはらプレスサービスのトランスファフィーダはお客様のご要望に合わせて製作を行っております。フィードバー継手部分には、ワンタッチ式やエア式など6種類から選択可能。工具を不要にし、段取り時間を短縮することができます。また、操作盤タッチパネルにすることで、動作タイミングを簡単に変更することが可能となります。金型ナンバーごとにプリセットすることで、簡単に生産を開始することもできます。

これらの組み合わせにより実現可能な、言わばオーダーメイド型のトランスファをお客様に提供しております。また、トランスファフィーダのみならず、プレス機械に

ついても様々なソリューションをご提供することができますので、プレス機械とトランスファフィーダを合わせた“Total Solution Engineering”をお客様にご提供いたします。



ACサーボトランスファ「ワークロボFFP」

6

### 終わりに

昨今の技術は日進月歩です。様々なデジタル技術や、IoTなど多くの技術が製造業界でも広まりつつあります。しのはらプレスサービスは、こういった技術を1つでも多く取り入れ、お客様により良いサービスをご提案・ご提供できるように日々進化して参ります。



本社（船橋）

## 新聞報道 から見た 会員動向

日刊工業新聞、日経産業新聞、日本経済新聞、全国紙、一般紙などに掲載された会員の記事を抄録して順不同で掲載します。

今回は、2018年3月16日から2018年6月15日に掲載された記事が対象ですが、決算、人事などの情報は除外しています。

### 日本鍛圧機械工業会+共通

- 5月の鍛圧機械受注、23%増 350億円 プレス系伸長 日鍛工まとめ 2018/06/12 日刊工業新聞 9ページ 499文字 PDF有
- 日鍛工、来月に産学連携セミナー 2018/05/28 日刊工業新聞 9ページ 223文字 PDF有
- 定時総会/日本鍛圧機械工業会/受注実績が好調18年度も増加へ 2018/05/22 日刊産業新聞 3ページ 317文字
- 日鍛工、「MF-TOKYO」1小間を無償提供 来年開催、会員企業向け 2018/05/16 日刊工業新聞 4ページ 305文字 PDF有
- 4月の鍛圧機械受注、7.3%増の312億円 3カ月ぶりプラス 2018/05/14 日刊工業新聞 7ページ 383文字 PDF有
- 春の叙勲産業界の受章者。... 御子柴隆夫 86 産業振興 元日本鍛圧機械工業会会長 神奈川 斎藤 徹郎 7... 2018/05/01 日経産業新聞 9ページ 6611文字 PDF有
- 鍛圧機械/3月受注額11%減/プレス系落ち込む 板金系は伸長 2018/04/19 日刊産業新聞 4ページ 937文字
- 鍛圧機械受注、昨年度7%増の3538億円 2期ぶりプラス 日鍛工まとめ 2018/04/10 日刊工業新聞 8ページ 451文字 PDF有

### プレス機械系

- コマツ産機
  - コマツ産機、水冷式サーボプレス生産性30%向上 2018/04/05 日刊工業新聞 8ページ 486文字 PDF有
- 川崎油工
  - 川崎油工、3年で新規採用50人 プレス機械を強化 2018/03/20 日刊工業新聞 8ページ 682文字 PDF有

### 板金機械系

- アマダ
  - アマダHD、メキシコにデモ拠点 板金機械提案 2018/06/14 日刊

- 工業新聞 7ページ 342文字
- アマダ工場にIoT、日立、基盤提供・データ分析。日立製作所はアマダと共同で工場の生産性... 2018/06/13 日経産業新聞 4ページ 551文字 PDF有
- アマダHD、ファイバーレーザー加工機 1台で平板・形鋼加工 2018/06/08 日刊工業新聞 8ページ 435文字 PDF有
- アマダHD/アマダ記念会館オープン/創業の精神、対外的にアピール 2018/04/19 日刊産業新聞 2ページ 476文字

### ■村田機械

- 村田機械、金型埋込型の位置センサー開発 射出成形加工法に対応 2018/04/18 日刊工業新聞 13ページ 663文字 PDF有
- 村田機械、薄板一中厚板まで対応したファイバーレーザー加工機 2018/04/06 日刊工業新聞 8ページ 346文字 PDF有

### ■ヤマザキマザック

- 効率化より増産優先、ヤマザキマザック、新工場、大型受注にも対応。工作機械メーカー大手のヤマザキマザックが強気の増産投資を進... 2018/05/17 日本経済新聞 地方経済面 中部 7ページ 絵写表有 950文字 PDF有

### ■小池酸素工業

- 小池酸素工業/門型ファイバーレーザー機/改良タイプを発売/新機能追加し切断性能向上 2018/06/06 鉄鋼新聞 2ページ 887文字 PDF有

### フォーミング機械系・その他

#### ■理研計器奈良製作所

- 理研計器奈良製作所、プレス監視装置に高機能タイプ2種追加 2018/04/05 日刊工業新聞 7ページ 541文字 PDF有

#### ■三共製作所

- 三共製作所、位置整定時間を短縮する溶接ポジショナー 2018/05/17 日刊工業新聞 8ページ 344文字 PDF有

#### ■ファナック

- ファナック、工場用IoT基盤 米欧で運用開始 2018/06/01 日刊工業新聞 9ページ 404文字 PDF有
- ファナック、サイクルタイムを短縮するCNC・サーボ制御技術の機能群開発 2018/04/18 日刊工業新聞 13ページ 805文字 PDF有

#### ■三菱電機(非会員)

- 三菱電機、基板の穴あけ用レーザー加工機 生産性1割向上 2018/06/08 日刊工業新聞 9ページ 319文字 PDF有
- 三菱電機、溶接火花95%カット 高出力ファイバーレーザー 2018/05/23 日刊自動車新聞 6ページ 411文字

## 報告Ⅲ 産学連携推進チーム・産学連携推進分科会が JFEスチール東日本製鉄所工場視察見学会を実施

- 開催日 2018年6月5日(火)
- 視察先 JFEスチール株式会社 東日本製鉄所
- 参加人数 17名(JFEスチール様、事務局含む)

産学連携推進チーム(坂本雅治委員長)は、情報交換と懇親を深めるために、JFEスチール株式会社の東日本製鉄所工場視察見学会を行った。

また、IoT講演ということでJFEスチールの山口取リーダーより、「産業を取りまく最新技術について」ご講演いただいた。その後、



第7回産学連携推進分科会を開催、JFEみやざき倶楽部にて和やかに懇親会が開催された。懇親を深めるよい機会となった。

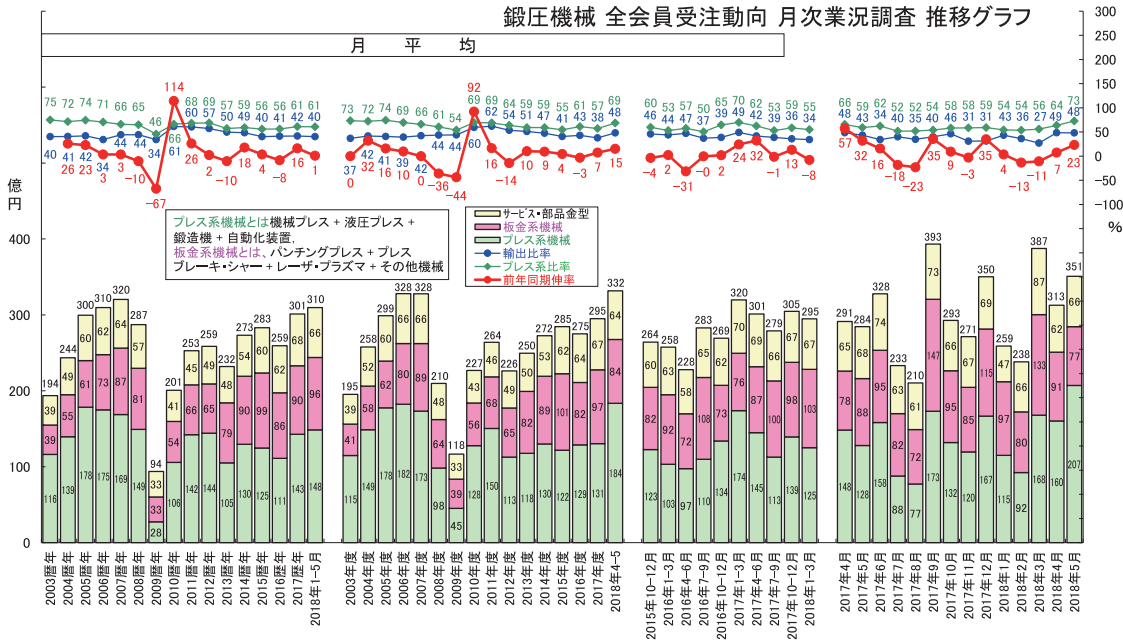


鍛圧機械 全会員受注グラフ (月次業況調査)

一般社団法人日本鍛圧機械工業会

2018年6月8日

- 2018年5月度 鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査コメント
- 概況 受注総合計は350.8億円、前年同月比23.3%の増加、3ヶ月連続で300億を超えた。プレス系は前月に続きプラスを維持するも、板金系は10ヶ月振りに前年を下回った。内外別では、国内は自動車、金属製品製造業、一般機械と電機、輸出は、インド向の大型・超大型プレスが牽引した。
  - 機種別 プレス系機械は207.0億円、前年同月比61.9%増。超大型プレスは28.5%増、大型プレス91.7%増、中型プレスも45.6%増だが、小型プレスは29.1%減だった。油圧プレスは11倍増、フォージも2倍増だが、自動化・安全装置は41.0%減。板金系機械は77.5億円、前年同月比12.2%減。プレスブレーキが7.4%減、ハンチング9.2%減、レーザー・プラズマも20.1%減。
  - 内外別 国内は147.7億円、前年同月比20.3%増。自動車は49.7%増、金属製品製造業1.6%増、一般機械9.0%増、電機も35.9%増だが、鉄鋼・非鉄金属は34.7%減となった。(機種計) 輸出は136.8億円、前年同月比46.5%増。インド向が18倍増、韓国・台湾向も倍増だが、北米向は19.4%減、中国向12.7%減、東南アジア向28.2%減、欧州向19.4%減となった。



報告Ⅳ DMC 2018(第18回中国国際金型技術と設備展示会) & 2018 AMFE(上海国際自動車金型と成形加工展)の視察報告

- 会期：2018年6月5日～9日 5日間(9：00～17：00、最終日は15:00まで)
- 会場：中国国家会展センター(上海・虹橋) 2H, 3H, 4.1H  
National Exhibition and Convention Center (Shanghai, Hongqiao)
- 主催者：中国金型工業協会(China Die & Mold Industry Association, CDMIA)  
上海市国際展覽有限公司(Shanghai International Exhibition Co., Ltd., SIEC)
- 出展者数：約1,000社 ■会場面積：100,000㎡
- 目標来場者数：100,000人(事務局予想では50,000人ぐらい)
- 出展国：ドイツ、日本、スイス、イタリア、フランス、韓国等13カ国。

今回これまで開催していた上海新国際見本市会場から3年ほど前に完成した国家会展センターに会場を移し、初回となる2018AMFE (Shanghai International Automotive Moulding and Forming Technology Expo) が併催された。

展示構成を加工機械、工具、加工業の三つに大きくすると、それぞれ1/3位ずつの印象である。出展されている機械は、ワイヤ放電加工機、平面研削盤、マシニングセンタ等、やはり金型加工用工作機械が目立つ。プレス・レーザー加工機の展示はそれぞれ数社程度であった。1社ではあるが3Dプリンタによる加工サンプルを展示していた。

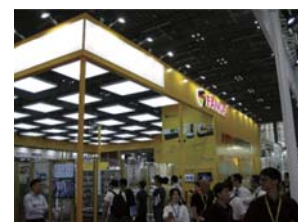
日系企業出展者はガイドブックによると19社だが、現地代理店ブースで日本企業名が散見された(アイダエンジニアリング、アイシス、コマツ等)。実際に出展していた会員企業は、ファナックの1社であった。

2016年と比較すると、規模は拡大した模様だが、機械メーカーの出展数、実演の数など減少傾向が見受けられた。

報告者：吉村 昌成・楠田 富士盛



従会場入り口の巨大なバナー



ファナックが大規模に展示



展示されるアイシスのプレス機

# 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 会員一覧

2018年7月1日現在 五十音順・法人格省略

## 会員 (112社)

相澤鐵工所	ソノルカエンジニアリング
アイシス	大東スピニング
アイセル	大同マシナリー
アイダエンジニアリング	ダイマック
アサイ産業	大陽日酸
浅野研究所	高千穂システムエンジニアリング
旭サナック	タガミ・イーエクス
旭精機工業	伊達機械
アマダホールディングス	ティーエスエイチインターナショナル
アミノ	ティーエス プレシジョン
IHI 物流産業システム	東和精機
Eプラン	トルンプ
板屋製作所	中島田鉄工所
エイチアンドエフ	中田製作所
エーエス	ニシダ精機
エステーリンク	ニッセー
エヌエスシー	日本オートマチックマシン
榎本機工	日本スピンドル製造
大阪ジャッキ製作所	日本電産シンポ
大阪ロール工機	日本ムーグ
オーセンテック	能率機械製作所
大峰工業	Baykal Japan(バイカル ジャパン)
オプトン	バリストロニックジャパン
オリイメック	パスカル
型研精工	日高精機
金澤機械	日立オートモティブシステムズ
川崎油工	ファインツール・ジャパン
川副機械製作所	ファナック
関西鐵工所	ファブエース
ギア	富士機工
キャドマック	富士商工マシナリー
キョウシンエンジニアリング	フリーベアコーポレーション
協和マシン	放電精密加工研究所
栗本鐵工所	ホンダクリエイティブ
京葉ベンド	松本製作所
ゲルブ・ジャパン	マテックス精工
小池酸素工業	万陽
向洋技研	三菱長崎機工
コータキ精機	宮崎機械システム
小島鐵工所	村田機械
コニック	メガテック
コマツ	モリタアンドカンパニー
コマツ産機	森鉄工
コムコ	ヤマザキマザックオプトニクス
小森安全機研究所	山田ドビー
阪村機械製作所	山本水圧工業所
阪村ホットアート	油圧機工業
サルバニーニジャパン	ユーロテック
三起精工	ユタニ
三共製作所	吉田記念
しのはらプレスサービス	ヨシツカ精機
芝川製作所	吉野機械製作所
澁谷工業	理研オブテック
蛇の目マシン工業	理研計器奈良製作所
杉山電機システム	理工社
住友重機械工業	ロス・アジア



## 会報METAL FORM No.67 2018年7月

2018年7月1日発行 No.67 (季刊1,4,7,10の月の1日発行)

発行所 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館3階 電話03(3432)4579(代)